事例Ⅳ講評

１．事例テーマ・経営課題

化粧品を製造する企業の事例である。Ｄ社が独自開発した原料を使いながら、基礎化粧品・サプリメントなどの企画・開発・販売を行っている。製造部分は、ＯＥＭ生産をメインとしている。財務諸表は、２期比較である。財務内容に関しては把握しやすく、計算問題に関しても時間さえあれば取れる問題となっている。

２．問題の特徴・難易度

難易度は、「やや易しい」。昨年のような第１問の生産性を問う傾向変化は大きくはなかった。また、計算問題に関しても全体的には対応しやすく、まったく歯が立たないというわけではない。こういった問題の場合は、できる人はしっかり得点できて、苦手な人は得点が低迷してしまうので差が付きやすい。得点差のバラつきが大きく発生してしまっている可能性が高い。

３．設問別講評

第１問

お馴染みの経営分析に関する問題である。悪化を２つと、改善を１つ指標で選ばせるタイプであった。昨年のような生産性に関する観点の指定はなかった。ただし、悪化を２つ検討することがやや難しく、１つだけであればわかりやすかった。その悪化のうち１つを設問２で論述させるタイプである。悪化の原因について、与件文の範囲内で素直に考えてほしい。

第２問

ＣＶＰ分析に関する内容である。

（設問１）

久しぶりの２期間比較から変動費率と固定費を算出するタイプの問題であった。過去問をしっかりと学習している受験生は対応できたであろう。固定費の算出に関しては、令和３年度と４年度のどちらにあてはめるかで算出結果が変わってしまう。そこだけ注意が必要である。

（設問２）

３種類の製品における貢献利益の分析論点である。Ｘ製品が営業利益ベースでは赤字となっているが、本製品の販売を中止すべきかどうかを検討する。ただし、Ｘ製品の個別固定費の 80％が回避可能という条件が与えられている部分が重要であり、その点も考慮したい。

（設問３）

売上を基準にした共通費の配賦について、妥当性が聞かれている。妥当であると考えられる点と妥当ではないと考えられる点がある。売上ベースでは、Ｘ製品の共通費配賦が不利となるため、その点について言及することもありであろう。

第３問

アンチエイジングの設備投資に関する意思決定会計論点である。

（設問１）

正味運転資本を考慮しつつ、正味現在価値を算出する。ただし、初年度期首に正味運転資本はない前提であるため、１年後にキャッシュアウトする分と５年後の回収分を考慮する部分に注意が必要である。やや難しいが、少数の人の中で対応できた人がいたであろう。

（設問２）

投資を１年ずらす形での投資意思決定が問われた。かなり時間のかかる計算論点になるため、対応は難しい。本設問までしっかりとできている人はほぼいないと予想できる。つまりは、「できなくても良い」設問である。ただ、論述の結論部分など計算しなくても書ける部分は書いておきたい。

第４問

（設問１）

ＯＥＭ生産による財務的な利点が問われた。資産効率の良さなど無難な解答ができれば問題ないであろう。本問はしっかりと得点したかった。

（設問２）

アンチエイジング製品を開発し販売することの財務的な利点が問われた。アンチエイジングはＯＥＭではなく自社で設備投資するため、設問１との比較で検討したい。ただし、単純にＯＥＭをしないで自社投資することの利点を問うような設問文ではないので、ＯＥＭだけでない要素についても言及したかった。